

警察大跡地「防災公園狭い」

住民「違法」提訴へ

都の計画決定

東京都中野区のJR中野駅前にある警察大跡地の再開発計画をめぐり、同区と跡地に隣接する杉並区の住民四人が、跡地に計画された防災公園が狭く、避難場所としての安全性を確保できないなどとして、都に都市計画決定の違法確認などを求める訴えを、六月中に東京地裁に起こす方針を決めた。

跡地は約十三万平方メートル。二〇〇一年に警察大学校が東京都府中市に移転後、中野区などの再開発計画に沿って、国が西半分を早稲田、明治、帝京平成の三大学に売却。残りは東京建物が開発業務を受託した駅前開発特定目的会社(SPC)が取得した。

も最大地上二十二階建てマンションを含むオフィスビルを建設する予定。都市計画は都が六月中旬にも決定する見込み。

住民らは①予定地中心に計画された防災公園は面積一・五㊦で、中野区みどりの基本計画で事前に決められた四㊦よりも狭く、震災時の避難場所として区民の安全を十分に確保できない②隣接する杉並区側は高さ制限十㊦の低層住宅地にもかかわらず、住民に配慮せずに高層ビルを建設することは公共の福祉に反している、と主張する方針。

中野区まちづくり推進室の川崎亨室長は「防災公園のほかに公共空地一・五㊦を確保するため、広域避難場所として十分に機能できると考えている。住民の理解を得るために今後も説明をしていきたい」と話している。

